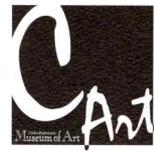


# みる つくる かたる

APPRECIATE

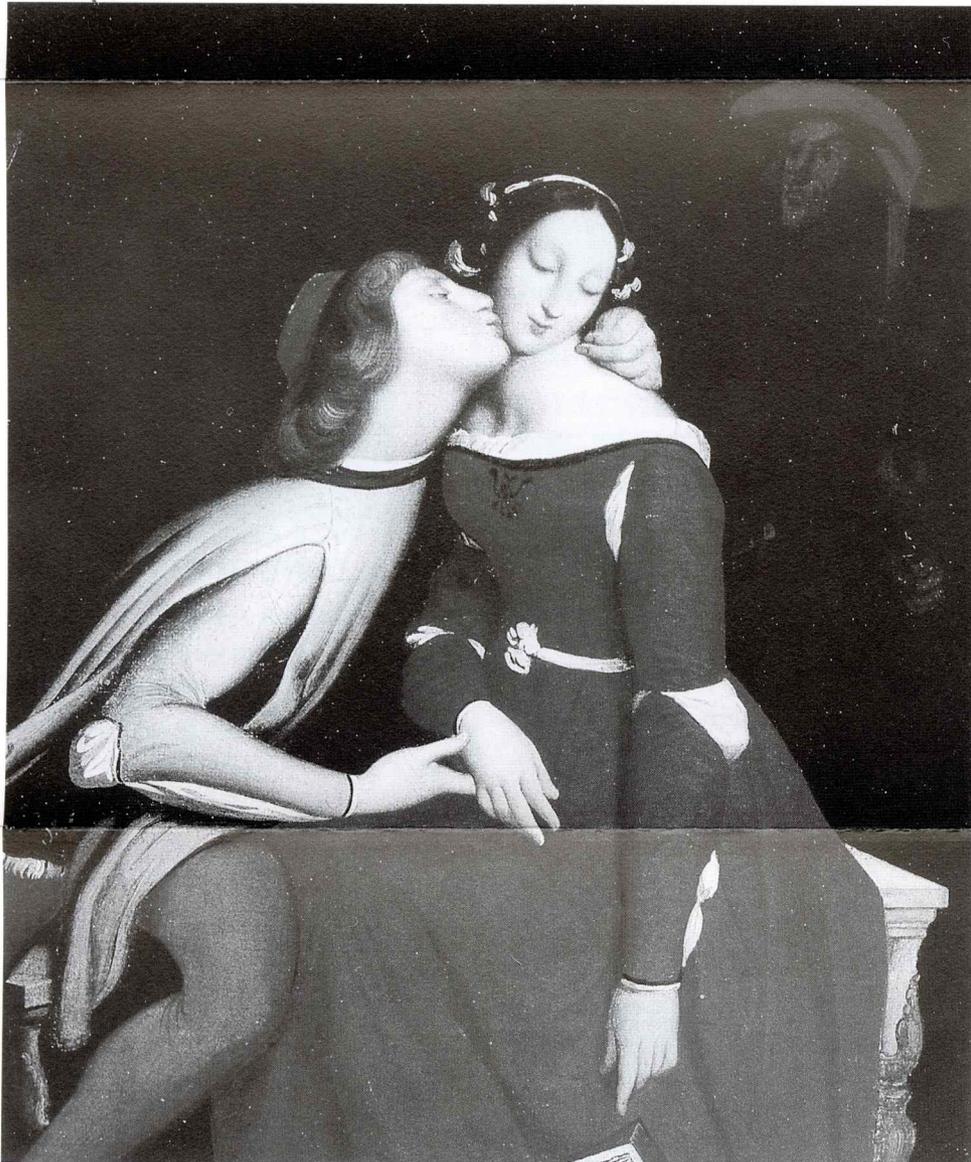
DISCUSS

CREATE



VOL.27 NO.1  
(通巻81号)  
2000

ART NEWS  
千葉県立美術館



ジャン=オーギュスト=ドミニク・アングル  
「パオロとフランチェスカ」  
1845年頃 油彩・カンヴァス

上野の国立西洋美術館あるいは静岡県立美術館で、ロダンの「地獄の門」を目にした方は多いと思います。これはダンテの「神曲」地獄篇をモチーフにしたものです。「神曲」の豊饒なインスピレーションの泉は、文学はもとより音楽、そして美術の分野に大きな影響を与え、ロダンに限らず画家や彫刻家たちの創作意欲をかきたてて止みませんでした。

とりわけ、地獄篇の第5歌に登場する「パオロとフランチェスカ」の悲劇は、19世紀の画家たちが好んで取り上げたモチーフです。

アングルは、禁じられた恋の物語を読んで急速に惹かれ合う二人と、迫りくる死の瞬間とを、卓越した構成と精緻な筆遣いでひとつの画面に形象化しました。時間が止まったかのような静けさの中で、フランチェスカのドレスは地獄の劫火に包まれるがごとき鮮烈な赤で燃え上がります。

## みる

特別展

# 100の光彩

近世ヨーロッパ絵画の軌跡

6月3日(土) - 7月30日(日)

特別展

# 100の光彩

—近世ヨーロッパ絵画の軌跡—

千葉県立美術館の今年度特別展は、ヨーロッパ美術の核となったネーデルランド(現在のオランダ、ベルギー)、及びフランスを中心に、16世紀から19世紀までの近世ヨーロッパ絵画の軌跡をたどります。今も美的光彩を放つ100点の作品を4部構成で紹介します。

## SECTION1 「永遠から現在へ」

16～17世紀ネーデルランド絵画

16世紀初頭、マルティン・ルターによって始まった宗教改革は美術にも多大な影響を及ぼしました。プロテスタントによる聖像破壊運動は宗教画の否定につながっていきます。中世、ルネサンスの「理想美」「永遠の美」から画家の目は「現在のあるがままの姿」へ移っていったのです。これまで絵画の背景でしかなかった風景を単独のジャンルとして確立したのもこの時代、このネーデルランドです。また、日常生活のひとこまを描く風俗画や静物画、肖像画が一斉に華開きました。ピーテル・ブリューゲル父子、バロック最大の画家ペーテル・パウル・ルーベンス、オランダ風景画の第一人者ヤコブ・ロイスダール等、世紀をまたいだ多彩な作品を紹介します。



ヤコブ・イサークスゾーン・ファン・ロイスダール  
「滝のある風景」 1650年代後半

## SECTION2 「フランスの歩み」

17～18世紀フランス古典主義絵画

フランスは他のヨーロッパ諸国に先駆けて近代的中央集権国家を確立し、名実ともにヨーロッパ文化の中心となりました。その特徴は、バロック絵画の大向こうを狙った派手なものとは異なり、洗練と節度を重んじるものでした。その代表的な画家クロード・ロランを中心に紹介します。



ウスタッシュ・ル・シュウール  
「ガラテアの凱旋」 不詳

## SECTION3 「夢とうつつと」

18世紀ロココ絵画

ロココ絵画の創始者ジャン・アントワヌ・ヴァトーは気品と優雅さを備えた夢幻の「雅宴画」によって一世を風靡しました。一方、「ロココの良心」と推奨されたジャン＝バティスト・シメオン・シャルダンには市民階級の日常に目を向け、静謐な静物画や風俗画を残しました。ヴァトーやジャン・マルク・ナティエらの夢見るかのような華やかな宮廷貴族世界と、シャルダンらによる庶民の日常世界を対比して紹介します。



ジャン＝バティスト・シメオン・シャルダン  
「銅鍋と水差しのある静物」 1725年頃

## SECTION4

「古代の啓示あるいは愉悦の女像」

19世紀の新古典主義絵画

18世紀の中頃、ポンペイなどの

古代遺跡が発掘され古代ブームが巻き起こりました。享乐的なロココ美術に食傷気味になっていたこともあり、再びギリシアやローマの古典を見直そうと生まれたのが新古典主義絵画でした。創始者ダビッドの跡を継いだドミニク・アングルは、色彩に対する線の優位と静的な構図によって新古典主義をリードしていきます。ここでは、アレクサンドル・カバネル、アドルフ・ブーグロー、ジャン・レオン・ジェロームらフランス・アカデミーの画家達による女性像を中心とした多彩な表現を紹介します。



フリードリヒ・フォン・アマーリング  
「東洋風衣装の婦人」 1854年

作品が生まれた時代に思いを馳せながら、親しみやすい近世絵画の魅力に触れていただきたいと思えます。是非、この機会に御鑑賞ください。

## 【美術講演会】

特別展に関連し、美術講演会を行います。

会 期：6月24日(土)

時 間：午後2時～3時30分

会 場：千葉県立美術館 講堂

講 師：坂本 満(聖徳大学教授)

演 題：「ヨーロッパ絵画における伝統と変容」

定 員：200名

聴 講：無料

開館時間／午前9時～午後4時30分

入場料／一般 800円(600円)

高・大学生 500円(400円)

小・中学生 300円(70円)

※( )内は20名以上の団体料金

休館日／毎週月曜日

一浅井忠の足跡を体系的に紹介一

[収蔵作品による企画展]

浅井忠とその周辺

皆さんは既によく御存知のとおり、当館では、開館以来、近代日本洋画の先駆者・浅井忠（1856～1907）について、積極的な調査活動を行ってきました。

その成果として、現在までに、油彩、水彩、日本画、工芸品などの作品約180点をはじめ、下絵や書簡などの資料約1280点を所蔵し、日本有数の浅井忠コレクションを形成するに至っています。

この膨大なコレクションは、できるだけ継続的に、まとめて鑑賞いただきたいところですが、作品保護などの観点から、なかなか長期にわたる展示は困難です。そこで、年1回のペースで、まとめて展示する機会を設けてきました。

今年は、8月5日（土）から9月3日（日）まで約1ヶ月開催します。

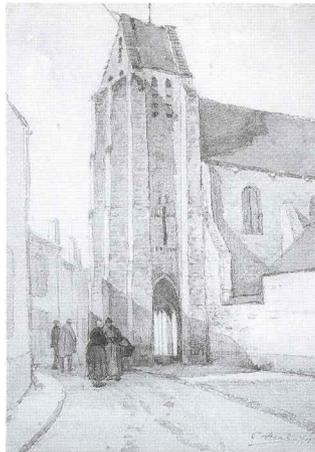
今回の展覧会は、幼年時代から、工部美術学校で学んだ東京時代、ヨーロッパへの留学時代、帰国後の京都時代というように、浅井の様々な美術活動を中心に、浅井と関わりの深いバルビゾン派の作品や、浅井に教えを受け、後年日本美術界で指導的役割を果たした画家たちの作品なども展示し、近代洋画に果たした浅井の足跡を体系的に御紹介する予定です。

量的にも、平成10年度に開催した特別展並みと思います。年1回の機会ですので、ぜひ御鑑賞ください。

なお、10月から山梨県立美術館ほか4館で、「一明治洋画の聖地一グレー村の画家たち展」が開催されます。パリ郊外のグレー村は、留学中の浅井がたびたび訪れて、名作を生み出した地です。この展覧会には、当館も協力して関係作品や資料などを多数貸し出します。

当館の展覧会と併せて御覧になると、日本の近代洋画の発展の歴

史について一層理解が深まるのではないのでしょうか。



浅井忠  
「グレーの塔」 1901年

企画展 千代倉 桜舟展

千代倉桜舟（ちよくらおうしゅう・本名 胖〔ゆたか〕/1912～1999）は、君津市久留里出身の書家です。古書の研究に始まり、前衛書、超大仮名書を創造し、毎日芸術賞などを受賞しました。

海外でも数多く個展を開催し、国外の美術館に作品が収蔵されるなど、国際的にも活躍しました。

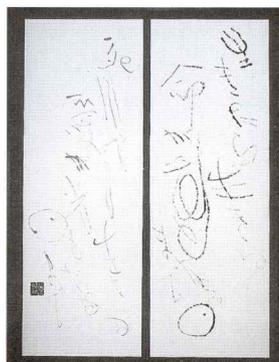
また、群鴉書人会会長をはじめ、書道団体の要職を歴任しつつ、書芸術の振興に尽力しました。

本展は、初期から晩年に至る作品約40点に関連資料を併せて展示し、千代倉桜舟の書の魅力を紹介します。

会期/11月25日（土）～1月28日（日）  
入場無料

※年末年始休館

12月26日（火）～1月4日（木）



千代倉桜舟  
「宗左近詩（縄文太鼓より）」 1993年

新収蔵作品

平成11年度に収蔵した作品は次のとおりです。

〔日本画〕

石井林響 「湖山清秋」

小幡春生

「千手観音（二十八部像）」

「水郷風景」

「龍上観音」

浦田正夫 「外房早春」

杉原元人 「更」

「山氣」

「韻」

杉原笛邦 「水辺」

「南総九十九谷」

牧野三生郎 「三十三間堂」

「比叡定光院」

〔洋画〕

青木純子 「幽と明」

「静」

「静物」

秋元恒 「横臥裸婦」

「切通し」

「杉」

「上貝塚の丘（Ⅱ）」

石橋武治 「雨の海」

「足をふく女」

「高原の朝」

「水辺の家」

「湖畔」

「利根川」

田坂乾 「カルポーの泉」

「シュブルーズ」

「ニースの港」

「ブリュージュ」

「ヴェネツィア」

山倉克己 「高原暮色」

「田園春めく」

山谷鉄一「遊弋（魚と遊ぶ海女）」

〔工芸〕

石井康治 「環象文器」

「彩花文器」

戸島甲喜 「胎宙の図」

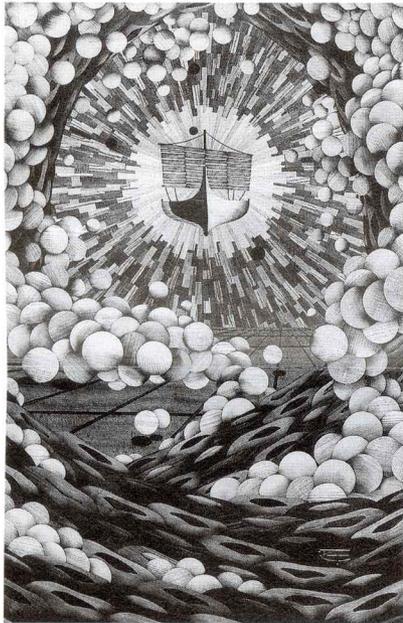
「天と地の間に」

「聖域の傳説」

「蘇生」

# かたる つくる

戸島甲喜 「古代より…」  
 “ 「胎宙の図」



戸島甲喜  
 「古代より…」 1978年

松原利男 「藍形染着物 浜辺文」  
 “ 「長板中形 蛤に海草文」  
 “ 「長板中形 鯉文」  
 深山美峰 「四君子」  
 “ 「襲獲」  
 “ 「飛鶴」

〔書〕  
 浅見錦龍 「良寛詩」  
 “ “  
 “ 「いろは」  
 “ 「太陽」  
 小高咲帯 「杜甫の詩」  
 中村象閣 「平家物語の一節」  
 “ 「万葉長歌」  
 “ 「星野立子句」  
 日暮曠岱 「古佛有家風」  
 福田丞洲 「啄木のうた」  
 宮小路康文 「四季唐宋詩選」

〔版画〕  
 久保木彦 「ローデンプルグの城門」  
 “ 「夢の古城」  
 “ 「与田浦」  
 “ 「水無月の水郷」  
 “ 「思い出」

## 実技講座

当館は、「みる・かたる・つくる」を活動の基本方針とし、開館以来、幅広い美術館活動を展開しています。その基本方針の一つである「つくる」に関して重要な役割を果たしているのが、「実技講座」です。昭和54年に県民アトリエが完成してからは、より充実した活動内容となり、すばらしい講師陣の協力を得ながら実施してきました。

今年度は、『美術館でしか味わえない……美術館ならではの創作芸術空間』をキャッチフレーズに、本館主催の講座として、(陶芸・彫刻・版画・金工・篆刻)と、平面作品の制作を主にした友の会主催の13講座(洋画・日本画・デッサン等)を開講しています。

初心者から経験者まで、誰でも楽しめる実技講座として、県民の多くの方に親しまれる制作空間を目指し、芸術をもっと身近に感じていただくことができれば幸いです。

### 7月以降の美術館主催実技講座

- 彫刻講座 (7/11～7/28 全10日間)  
 講師 福永 巨  
 申込締切日 6月29日(木)
- 版画講座 (10/17～11/3 全10日間)  
 講師 上野 適  
 申込締切日 10月6日(金)
- 金工講座 (1/23～2/8 全10日間)  
 講師 小林正利  
 申込締切日 1月11日(木)
- 篆刻講座 (2/16～2/28 全6日間)  
 講師 細谷長生  
 申込締切日 2月7日(月)

### 【申込方法】

往復はがきに希望講座名・住所・氏名・電話番号を御記入のうえ、千葉県立美術館普及課までお申し込みください。定員を超えた場合は抽選となります。

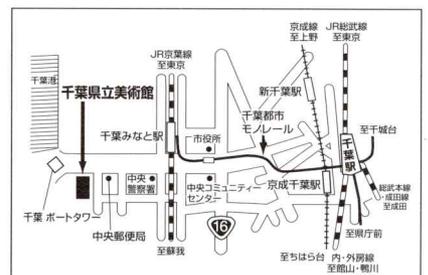
## 第5回 こども写生会

- 期 日 平成12年7月20日(木)  
 海の日に開催します。  
 但し、雨天の場合は、7月22日(土) 23日(日) 29日(土)に順次順延となります。
- 参加対象 県内小学生100名
- 参加料 500円
- 展示期間 「こども写生会展」  
 平成11年8月22日(火)～27日(日)(第6展示室)  
 午前9時～午後4時30分
- 申込方法 往復はがきに、「こども写生会参加希望」と記し、住所・氏名(ふりがな)・電話番号・学校名・学年を記入のうえ、「千葉県立美術館こども写生会係」あて申し込んでください。7月7日(金)必着。

但し、応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。

### <美術館案内>

- JR「千葉」・京成電鉄「京成千葉」駅より「千葉ポートタワー行」バス15分「美術館・中央郵便局前」下車徒歩1分
- JR(京葉線)・千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車徒歩8分



〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1  
 ☎043 (242) 8311 (代)